

「具体⇄抽象」PJ 報告①MCN の活動とプロジェクトの概要

企業経営漫談士 岡野実空

ここからしばらくは予定を変更し、今春から MCN が各社有志の方々と共に進めてきた、「具体⇄抽象」プロジェクトの経過や成果をお伝えしていきます。それは私たち NPO がこれまで行ってきた、試行錯誤の集約であるばかりでなく、今後すべての個人および組織の能力開発の核となることが明確になったからです。今回はその経過と概要を、次回からは事例や要素を順次掲載します。

その1: MCN の使命とビジョン

「共育」をつうじて、ふつうの人をイノベーターにし、ふつうの組織にイノベーションを興す「触媒」となる。それは2011年東日本大震災後、マネジメント共育ネットワーク設立に向け、参加メンバーがさまざまな議論をした結実であり、「使命」や「ビジョン」を統合した私たち NPO の「理念」です。

因みに「共育」とは、Flat, Forward, Fun, Fusion という4つのFによる「知」の創造を意味します。また「イノベーション」とは、人々の生活や仕事に良い方向の変化をもたらす、ものごとの新しい進め方や仕組みのこと。しかし「技術革新」と訳されたため、我が国ではイノベーション(発明)との混同がまだに続いており、その違いを明確にし、周知することも私たちの役割の一部となっています。

その2: MCN の「触媒」模索活動

さて MCN の発足以降、私たちはイノベーションの「触媒」を模索してきました。まずセミナーでは、組織内で日常的に発生する問題に幅広く対応する一方、「経営幹部育成」などの機会をつうじて、個人および組織に「イノベーション」を興す要素や過程の提言および試行錯誤を重ねてきました。

またセミナーの参加者が、その後も学習を継続できるよう、各社内の自主研究会の支援だけでなく、各種の交流イベントを開催してきました。具体的には、NPO の起源である「経営漫談」と「経営寺子屋」に加え、幅広い一般教養をカバーする「夜話」など、南青山のサロンを中心に、すでに100回近く開催。そこに各界の一流講師を招いて貴重な話を伺うだけでなく、コンパクトな会場ならではの濃密なやりとりをつうじて知見を得る「場」を提供し続けてきました。

そしてその全活動をつうじて浮き彫りになった「触媒」の要素こそ、今回プロジェクトが取り組む、個人や組織の「具体⇄抽象」能力だったのです。

「具体⇄抽象」プロジェクト

目的 「具体⇄抽象」能力向上プログラム開発
期間 2021年4月～10月(全体会合4回)
参加者 各社有志、3DLA、MCN メンバー、約20名
成果発表 MCN10周年イベント(2021年12月予定)

その3: 「具体⇄抽象」能力強化の意味

今回のプロジェクトの目的は、その能力強化のためのプログラム開発と体系化。それは「マネジメント=コミュニケーション」の根本的な阻害要因を除去することに他なりません。「具体⇄抽象」能力は、個人がもつ情報や知識の「共有」を可能にし、さまざまな問題を集団で解決する道を開きます。またその当事者の「再発防止」という「見える」効果だけでなく、他のメンバーには「未然防止」という形で、「見えざる」組織貢献をします。

また「イノベーション=コミュニケーション」には、上記の「共有」に加え、知恵の創出という「相乗効果」が必須です。そのためには個人的な「具体⇄抽象」能力の強化だけでなく、「対話」をつうじて他人の同能力を介助し、その果実に自分もあやかるといふ、別の「共有」能力も必要になります。

以上のように今回のプロジェクトは、日常の「マネジメント」と「イノベーション」、そのための「情報共有」と「相乗効果」、それを担う「個人」と「組織」という、3種の「二兎を追う」もの。それは企業のみならず、社会を構成する政治・経済・文化すべての今後を左右する能力なのです。

その重要性を心底理解していただくために、今回は「具体⇄抽象」能力とは何か、その劣化によって何が起きているか、の説明から始めます。その前にまず周囲を見渡し、その兆候をご確認ください。

2021年10月4日 実空